

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>
No. 441

専大スポーツ
編集部
公式WEB



掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow



快調な滑りで先頭を走る高萩

高萩 日本新記録

女子ロード競技1万5000円

全日本ロードレーススピード選手権大会(5月13、14日、栃木県・わたらせサイクルパーク)で、高萩紗ら(文3・光丘高)が女子1万5000円級エリミネーションに出場。28分01秒344でゴールし、同種目の女子ロード競技で日本新記録を樹立し、優勝した。今大会では、100円

鎌倉金メダル

柔道男子81kg級



国際大会での金メダル獲得を喜ぶ鎌倉

チエコ・ジュニア国際大会

期待のルーキーが初の国際大会で躍動した。チエコ・ジュニア国際大会(プラハ・シニア・ヨーロッパ・ユニア・ヨーロッパ・ユニア)で、6月3、4日に行われ

ツプ(2023)の男子81kg級に鎌倉啓太郎(経営1・習志野高)が出場。各国代表40人によるトーナメント戦を制し、圧巻の強さで金メダルを獲得した。鎌倉は「初めての国際大会で不安もあったが、

全日本学生の出場権を獲得

東京学生柔道優勝大会(5月28日、千代田区・日本武道館)で、専大はベスト16入りし、6月25日に行われる全日本学生柔道優勝大会の出場権を獲得した。



二つの個人賞に輝いた出澤

男女とも2位

優秀選手賞・敢闘賞 出澤がW受賞

男子は3季ぶりの頂点を、女子は連覇を目指して臨んだが、いずれもあと二歩及ばず、2位でリーグ戦を終えた。男子は日大、早大に敗

春季関東学生卓球リーグ戦(5月10、21日、埼玉県・所沢市民体育館ほか)で、出澤は2位で



相手ゴールを狙う中山 撮影=鶴本あい(法3)

リーグ2位

関東学生水球リーグ戦(5月7日、6月4日、横浜市・日体大健志台プールほか)で、日体大に敗れたものの

4・埼玉栄高は「試合を重ねるごとにチームがまとまり、自分たちが試合を行うことができ

第7節終了時点では3位と上位をキープ。しかし、日本代表としてネーションズリーグに参戦中の甲斐優斗(経営2・日南振徳高)が代表活動で

年次から出場し、いまだ負けなしの圧倒的な強さで連勝を20に伸ばした。将の阿部悠人(文4・希望が丘高)、野田颯太(文3・育英高)、星優真(文2・東山高)の活躍もあり、4時間に迫る激戦を4-2で制した。阿部主将は「どこが優勝してもおかしくないくらい、実力は拮抗している。秋は全勝優勝を目指す」と総括した。

Aブロック4位

関東大学春季Aブロック対抗戦(5月20、21日、茨城県・サザンヤードカントリークラブ)で、専大は4位で



全国大学対抗戦での飛躍を誓うゴルフ部

われ、専大は4位で全国大学対抗戦(6月21、22日)の出場権を得た。主将の川崎智洋(経営4・湘南工科大附高)は「メンバー全員で上位との差を縮めよう」と戦ったが、うまくかみ合わな

つた」と振り返った。また、全国大学対抗戦に向高・小倉ひなた(文2・湘南工科大附高)ペア、女子シングルスに岡本璃南(文3・東京学館浦安高)が出場。全員が勝ち抜き、インカレの切符を手にした。



跳躍力を生かしたスパイクで得点を重ねた甲斐孝太郎

西村が2度目のベストナインに

東都大学野球春季リーグ戦(2部)の全日程が5月26日に終了した。1部復帰を目指した専大だったが、4勝9敗と負け越し、5位に終わった。無失策の試合がわずか1と守備の乱れが目立ち、試合のペースをつか



好調なシーズンを送った西村

6人がインカレへ

テニス・インカレ予選出場決定試合(5月20、27日、東京都日の出町・亜大日の出キャンパス)で、専大は6人がインカレに出場する。初のインカレに臨む増淵は「大学ラストイヤーなので、悔いのないプレーがしたかった。出場権を勝ち取ることができてうれし」と安堵の笑みを浮かべた。(河上)

甲斐孝、千葉が個人賞

春季関東大学バレーボールリーグ戦(4月8日、5月21日、神奈川県・小田原アリーナほか)で、専大は6勝1敗で終えた女子は、優勝した中大との大一番に敗れたことが響いた。主将の千葉満月(文4・専大北上高)は「非常に悔しい。次大会では優勝できるように考えていきたい」と語った。個人では出澤杏佳(文3・大成女子高)が優秀選手賞と敢闘賞をダブル受賞した。リーグ戦には1

5敗の7位と悔いの残る終わり方となった。個人賞では、甲斐孝太郎(文4・日南振徳高)がベストスコアラー賞、千葉貴世(経済2・東北高)が昨秋に続きブロック賞を受賞。185点で最多得点を記録した甲斐孝太郎が「終盤戦も得点をあげることができており、個人賞を狙っていた」と話すと、抜群のブロック決定率を残した千葉は「よく跳んでいた」と話した。(北原倅多・文2写真)

主に3番を担った西村進之介(経済4・栄徳高)がリーグ4位の打率・327をマークし、昨秋に続き2度目となる外野手部門のベストナインを獲得した。(河上)

萌夏(経営2・愛知啓成高)・小倉ひなた(文2・湘南工科大附高)ペア、女子シングルスに岡本璃南(文3・東京学館浦安高)が出場。全員が勝ち抜き、インカレの切符を手にした。シングルスでは、関東学生トーナメントで勝ち進んだ滝澤、五十嵐萌々(文3・東洋大附生久高)も出場を決め、合わせて6人がインカレに出場する。初のインカレに臨む増淵は「大学ラストイヤーなので、悔いのないプレーがしたかった。出場権を勝ち取ることができてうれし」と安堵の笑みを浮かべた。(河上)